

## ここからが大相場か～ギャン理論から見た金相場～

— NY金年後半予測 — ギャンアナリスト 中原 駿

## 【長期サイクル】

## 《25 年サイクルとサブサイクル》

NY金には有効な25年サイクルが存在。このサイクルは、1976年、1999 - 2001年、そして恐らく2025年前後であろう。

25年サイクルは、3つの8年サイクルか、2つの13年サイクルで構成される筈でありいずれもその第一位相は強気である。

現行サイクルが全体的に強気であれば、恐らく 2020 年位まではピークアウトしない（13 年サイクルであれば第 2 位相の後半、3 年サイクルであれば第 3 位相の後半）となる。

8年サイクルは金以外の商品市場や、株式市場にも適応出来る非常に強力なサイクルであり、上記25年サイクルに内包されるサイクル。76年を起点とすると、次が85年。その後93年、99-01年（ダブルボトム）、08年、そして未確認だが15年（12月3日）となる。08年の年間安値は10月24日の681ドル。この値位置が割り込まれない限り、8年サイクルボトムは08年10月と想定され、次の8年サイクルは2016年前後にボトムアウトする。ただ今月の動きを見る限り、08年10月から86カ月後の15年12月でボトムをつけたと推定して良いだろう。従って現行8年サイクルは、99-01年のダブルボトムを起点とした25年サイクルの第3位相。因みに第2位相は①弱気位相…2011年までにピークアウト。通常2010～11年がピーク、②中立位相…2012年前後にピークアウト。2011～13年がピーク、③強気位相…2013年以降にピークアウト。2013～14年がピークという3つのパターンとなる可能性があった。今までの最高値は2011年9月6日の1,920。一度反落した相場は翌年10月に1,798まで上昇したが、高値更新が出来なかった事で②の中立位相に弱気トランスした。つまりこの8年サイクルが終わるまで、11年9月高値は更新出来ないと見られていた。



## 《8年サイクルとサブサイクル》

8年サイクルは $1/2$ である4年サイクル、その $1/3$ である33カ月サイクル（レンジ25～40カ月）が存在。多くのサイクル同様、 $1/3$ である33カ月が支配的であるが、稀に4年サイクルとそのコンビネーションパターンが観察されている。

ただ08年10月を起点とした8年サイクルは3つの33ヵ月サイクルで構成されていたと思われる(27ヵ月—29ヵ月—30ヵ月)。相場は現在、15年12月から新8年サイクルに入っているのと同時に第1—33ヵ月サイクルにも入っている。

33 カ月サイクルは3つの11 カ月サイクルで構成され、昨年12月15日の安値で第1位相が終了。現在第二位相の上昇局面にあると言える。

## 【週間サイクル】

更にこの 11 カ月サイクルは、3 つの 16 週サイクル (13 ~ 19 週)、または 2 つの 24 週サイクル (20 ~ 28 週) で構成される。15 年 12 月起点の第一位相は 2 つの 24 週サイクルで構成された (26 週 - 28 週)。従って現行の第二位相も 2 つの 24 週サイクルで構成されるかもしれない、という仮説を立てる事が出来た。相場は昨年 12 月 15 日の安値から 30 週目にあたる 7 月に安値をつけた。これは通常の日柄よりも 2 週長いが、恐らくハーフサイクルボトムであったと考える。その場合、次の 24 週サイクルは短縮するかもしれない。いずれにせよ、日柄的に現行相場はまだ若く、次の 24 週サイクルも恐らく強気であるとすれば、相場は起点から 12 週目以降にしか高値をつけない筈である。



## 【アニバーサリー】

以下が8月から12月までの重要なアニバーサリーと推定される(太字は2016年に重要だったアニバーサリー)。

金は、あらゆる商品相場の中で最もアニバーサリーの効きがよい。特に12月15日、7月10日など非常に正確である。

目先は8月下旬に注目したい。

8月7日、8月15～17日、8月7日、8月15～17日、**8月23～28日**、9月6日、**9月11日**、9月17日、9月26～29日、10月6日、**10月10～15日**、10月21～24日、10月28～29日、11月5～9日、11月16日、11月22～25日、**12月2～9日**、12月16日、12月20～22日、12月29～31日。

## 【結論】

2015年12月3日の安値で、金相場は（25年サイクル内の）第3－8年サイクルがスタートしたとみる。現在、このサイクルに内包する第1－33カ月サイクルの中で、第1－11カ月サイクルボトムを昨年12月につけ、第2－11カ月サイクルに入っている。第1－33カ月サイクルはサイクル論的には強気なので、恐らく、この第2－11カ月サイクルも強気の筈である。

第1－11 か月サイクルの形状から、第2－11 か月サイクルも2つの24 週サイクルで構成されていると思われる、第1－24 週サイクルは2 週延長して30 週でボトムをつけた。今週は第2－24 週サイクルの7 週目でまだ上昇余地がある。

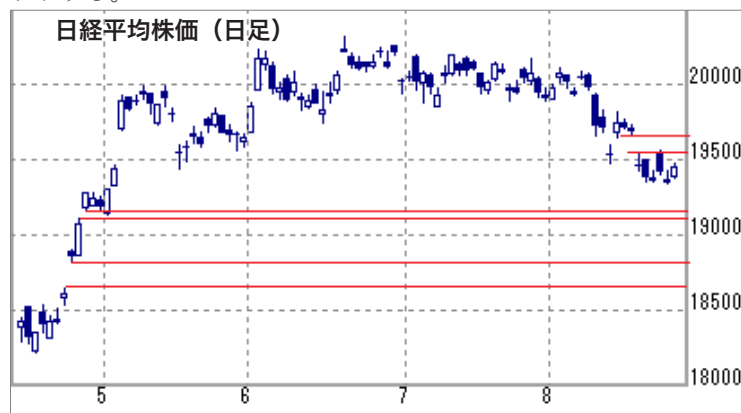
目先「上昇余地は一服」と見る識者もいるようだが、サイクル的な見方での金相場、並びに（ドル建て）金相場と運動性の高いユーロ／ドル相場は、むしろ「ここからが大きい」筈だ。

# ガテクニカル 上のマド埋めはトリガー

先週の日経平均株価は8月18日ギャップダウンから下値遊びが続いた。下値目標は2週間前に述べた通り。「以前参考にしてたフォーメーションは、昨年12月末から今年3月中旬にかけての保合。その後、下放れて4月17日のボトムまで約3週間強下げた。……ギャップダウン当日の高値からボトムまで5%の下落率であった。今回は8月9日のギャップダウンを同じ起点とすれば、下値の目処は18,947と算出。18営業日後は9月5日あたりとなる」。また、同じ経路を辿るかは依然として疑問だが、これを最悪の状況として、強気にとってはこの下げを買い拾う事だとも述べた。

さらに「現段階では2万円を超えて引けるまでは下げトレンドが続いていると認識。目先の攻防は1万9,200～400。9月5日の週前後からはボトムフォーメーションに注視したい」とコメント。2万円までは必要ない。8月17～18日のマド埋めはボトムを確認するだろう。下値は日足チャートの2つのマドがサポートされるべき地点。18,947の目標はそのマドの間になる。現在トピックスとの間では強気ダイバージェンスが

出現中。トピックス先物の安値は8月14日、日経平均は24日。前者は下値切り上がり、後者は切り下がり。日経平均がマドを埋めて(19,679以上)引けて来れば、強気トリガーとなる。今週から来週にかけてそろそろ買い場探しとしたい。もし下押すより先に強気トリガーが発生すれば、順張りでも買って良いだろう。ただし、その後引け値で19,485を割り込めばストップアウトする。



## 今週の必し押し ユーロの上げはダマシと見る

先週のジャクソンホールでのシンポジウムで、ドラギECB総裁はユーロを押し下げる発言をせず、イエレンFRB議長は金利に関する手がかりを示さず、先週末にかけてユーロは一段高、ドル指数は一段安となり、年初来の記録を更新した。

ただ、この時ユーロと連動性のあるNY金は、上昇したものの18日の高値を更新せず。水星逆行期間中は政治、及び経済指導者の発言に相場が混乱しやすいとされるので、ここはダマシのポイントであると筆者は考える。

日柄で見ると、今週は1月3日の安値から34週目。フラッグと呼ばれる短期保合いを相場は上放れたが、先週の段階で“6月も23日移動平均を8営業日下回った後に急騰しただけに、今週が売りの正念場と言える。用心も兼ねて売りポジションは幾許か利食いついて身を軽くして良いかも知れない”と警鐘を鳴らしていたので、利食いで身は軽くなっていると思われる。

先週の上げがダマシであれば、恐らく今週急落場面が出現すると筆者は考える。日足、週足共にスローストキャスティクスは弱気ダイバージェンスが発生している公算が高い。一度1.1500もしくは前週安値を試す展開があるのではないかと。



## アストロカレンダー

永井 元

さて、いよいよ来るだろうか、株の大暴落。

ネットを開けると、20××年から来た未来人予言だとか、サイキッカーだとか、記事は閲覧できないほどたくさんある。

どれかは本当かもしれないし、どれかはインチキに過ぎないかもしれない、真偽は不明だ。

しかしながら、天体の動きは予定通りであり、それがどのような影響になるか、我々にはわからないだけのこと。結果からみて、この現象はこの天体からもたらされたという後釈になる。

目先のメインは8月21日の皆既日食の影響に始まる。この日食の影響をネットで検索すると、かなりページが出てくる。

悪魔的予言もかなりある。一つ確かなことは、日本ではなく、もっと東か北側の外国で地震の可能性があることだ。我が国は株が突っ込む可能性と円高の可能性が示唆されている。

秋分図に目を移すと、円高と外国経済に突然の出来事があると暗示されている。すなわち、海外の経済が悪化し、安全な円が買われるという構図かもしれない。そして、9月25日に火星と海王星が約2年ぶりに180度を形成する。この会合は地震を誘発する。災害や経済の悪化が各地で多発することが予想される。

とにかく、株の保有をしないことをお勧めしたい。

### アストロカレンダー 9月 永井 元

|      | 天文現象         | 注目マーケット  |      | 天文現象                   | 注目マーケット  |
|------|--------------|----------|------|------------------------|----------|
| 1 金  | 月赤緯最南        | 穀物       | 16 土 |                        |          |
| 2 土  |              |          | 17 日 | 水星と火星が最接近              | アンバーサルデー |
| 3 日  | 水星・火星会合      | アンバーサルデー | 18 月 |                        |          |
| 4 月  |              |          | 19 火 | 水星食                    | 天候不順     |
| 5 火  | 水星逆行終了       | 全マーケット   | 20 水 | 新月<br>彼岸の入り            | 全マーケット   |
| 6 水  | 満月           | 全マーケット   | 21 木 | 月赤道通過                  | 為替・小豆・ゴム |
| 7 木  |              |          | 22 金 |                        |          |
| 8 金  | 月赤道通過        | 為替・小豆・ゴム | 23 土 | 秋分                     | 全マーケット   |
| 9 土  |              |          | 24 日 |                        |          |
| 10 日 |              |          | 25 月 | 火星・海王星180度             | 地震?      |
| 11 月 |              |          | 26 火 |                        |          |
| 12 火 | 水星西方最大離角     | 株式       | 27 水 | 月最遠                    |          |
| 13 水 | 下弦           |          | 28 木 | 上弦 月赤緯最南<br>木星・天王星180度 | 穀物・株式    |
| 14 木 | 月赤緯最北<br>月最近 | 穀物       | 29 金 |                        |          |
| 15 金 |              |          | 30 土 | 金星・海王星180度             | 天候不順     |

### 今週の相場風林語録

**兵は久しきを貴ばず**

孫子兵法。長期戦は不利である。



# 今週の九星★波動

《二黒土星》ならでは

南雲 紫蘭

「周回遅れ」一。今や日本と日銀を象徴する言葉とされています。どこをもってそういうのか。市場が注目しているのは、ジャクソンホール。今年のシンポジウムのテーマは「ダイナミックな世界経済の促進」。

実際にプログラムが公開されるのは8月24日ですが、すでにドラギ欧州中央銀行（ECB）総裁と黒田東彦日銀総裁が出席することに加えて、イエレンFRB議長が25日に金融の安定をテーマに講演を行うことが発表されています。

問題はそれらの議題。一昨年「インフレの力学と金融政策」、昨年「将来に向けた弾力性のある金融政策の枠組み策定」。

つまり中央銀行の主な関心事が、金融政策によるインフレの押し上げから、金融政策の持続性に転換したことがわかります。

つまり昨年の時はすでに、他の中央銀行はデフレを脱却できていたのに、今年の議題に至っては、完全に日銀の「周回遅れ」

## 相場指南道場

## トレーダーあすなろ物語 (409)

中原 駿

リスク量を増やす。しかも、中期ゾーンを買って。というのは蛮勇にも思えた。そして、シンガポール支店を目立たせてしまう。それでも、短期ゾーンはもう買えない。そして、利益も上がらない。もう短期金利と2年物金利の差は非常に小さくなっていった。コストを考えると、すでに2年債と短期金利は同じに等しくなっていた。もはや5年ゾーンを買わないと、金利差すら取れなくなっていたのである。それほど超長期は別として短期ゾーンの金利差はなくなっていた。

「ハロー。今日は中期ゾーンのプライスをくれ」。

当然、短期のスワップを聞かれると思っていたブローカーは明らかに驚いた。

## 第六感の 試される金のフラクタル



テクニカルアナリスト 葛城 北斗

### 反発の時間帯

ドル円相場は何度か108円台を試しているものの、維持され、先週は109円台に戻すのが精いっぱいであった。現段階では108円台が強力なサポートになっているものの、引け値で割ってきたときには底抜けを覚悟しなければならないだろう。その意味では買い方は108円割れの引け値はストップをかけておく必要がある。

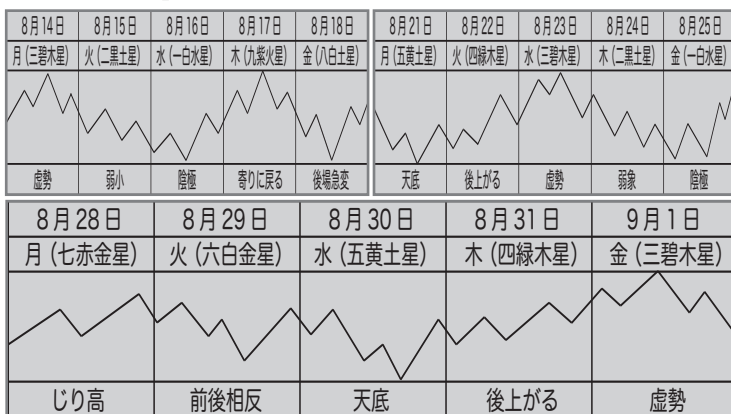
ここでドル円相場の1年サイクルを考えてみる。これまで1年サイクルについては8月一杯まで許容範囲であると述べてきたが、今週、金曜日以降108円を割ってくるとトラブルである。1年サイクルは4月にボトムを付けたことが確認され、その天井は7月に早々と付けてしまったと考えざるを得ない。このケースではボトムを付ける来年4月前後2カ月まで下降トレンドが形成される。下値目標値は上昇幅の倍返しで101.73±0.75となる。

現段階では今年4月の安値を下回らない限り、1年サイクルのボトムは4月につけたと想定、8月18日安値がダブルボトム（あるいはM型ボトム）として次の反発を準備していると考えている。

ただ、115円を突破するまではこのレンジ幅での推移が続く可能性がある。過去の長期にわたるレンジの推移では2014年2～8月が想起される。この時は2月安値から23週続いた。またその前の2013年5月以降の大トラウングルは22週にも

が浮き彫りになっているといえます。こんな状況では、株式も今一つ元気が出ないのは仕方がないかもしれません。

さて九星高下伝は月盤《二黒土星》も終盤。弱象を意味する《二黒土星》ならではの下落が示現。引き続き、「強気心理の中、じり安を続ける」ような気がしてなりません。



「ジョーさん、どうしたんですか」

ジョーとは上野の「上」を別読みしたもので、外人にもわかりやすい。ユエノーなどと聞こえてしまう上野の外人読みは到底受け入れられない。ついでにジョーといわれると、なぜか悪い気もしなかったのであうった。

「別に気分が悪いわけじゃないよ」

「ま、ジョーさんだから気分も…」

「それ以上言うな。オヤジギャグは苦手なんだ。気分はジョージョーじゃない。とにかく、ここから1週間くらいで中期ゾーンのポジションを積み上げる。秘密を守れるならば、注文は君に集中してもいい」

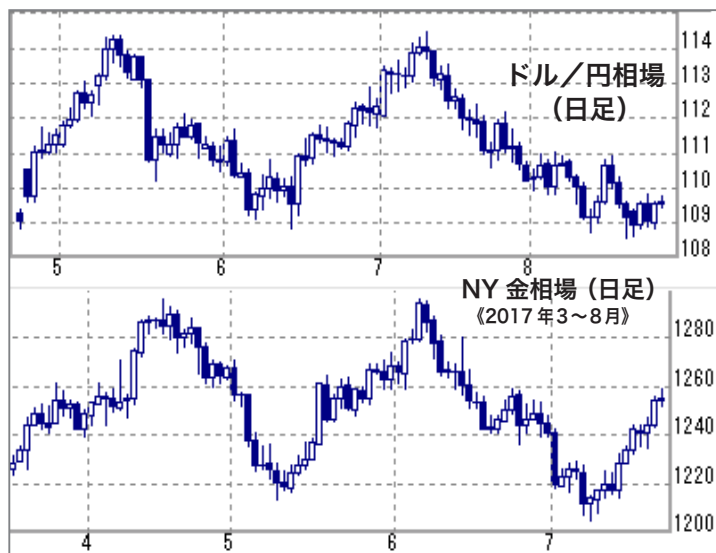
「イエス、サー」

ま、そういわれて気分が悪くなるブローカーはいない。

上野は、常に3社比較などしなくてはいけない、現在の機関投資家とは全く無縁の思想の持ち主であった。

及んだ。14年12月以降も22週のトライアングル。現在は4月安値から18週を経過。以上の形態は何れもその前に相場が上伸して、それを訂正する動きであった。今回も同様、最終的には保合い上放れを想定。

また金相場をモデルとしたフラクタルでは3週間前のコメント「現在のドル円相場の下げが金の6月の動きを再現している。今後期待されるのは、金が7月にM型の安値を付けて反発したような動きがドル円でも再現されるか注目したい」。先週は107円以下の引け値にストップを置き今週買いで攻めると述べた。108円割れの引け値にストップを置設定。安値から2円上昇すれば一部利食い。最大5円幅抜けまで維持できれば十分か。



## サイクルだけ話します。

— メリマン・サイクル理論 備忘録 —

## 【第54回】ドル指数のサイクルについて (9)

今週の記述は、解説というよりも、筆者自身の勉強の場です。以前も述べたように、メリマン氏の著述にはドル指数の週足サイクルの記載がありません。そのため、実際に週足を数える必要がありました。昨年10月の当欄では、実際に日柄を数えた上で“08年3月17日の安値から15年8月24日まで、17週が2度、18週が1度で安値サイクルが出現した以外、あとは軒並み20～28週間隔で安値をつけています。更に上記8月安値から今年5月3日の安値までは36週。8割適合がサイクルの鉄則なので、MMAが用いるプライマリーサイクル（PC）は20～36週ではないか、というのが筆者の見立てになります”と記述しました。

一方前回の当欄では3年強、37カ月のサイクルについて解説しました。1年52週として3年で156週。その半分の日柄である78週も重要な週足サイクルになるかも知れません。6分の1ルールに則って78週±13週、その2分割、3分割も意識して新たに日柄を数えました。また、この日柄に即して78週、39週、13週の移動平均を加えたものが、下に掲載した週足です。

## メリマン通信 — 金融アストロロジーへの誘い —

## 変化日と変化日の狭間の週

先週次の通り述べた“…水星逆行の特徴は不安定さと不規則性であると筆者は考える。以前から筆者は、逆光開始日と終了日、中間点とシャドウ抜けの時間帯が相場の反転ポイントになりやすいと指摘しているが、動きに一貫性がない。上記の時間帯を節目に上下変動を繰り返すと思うと、一本調子に相場が進んだり、時にはウィップソー（のこぎりの歯）のように不規則に細かい上下変動に見舞われるケースもある。しかも、通常なら連動性のある相場がこの期間中ではバラバラに動いたりする。今回の水星逆行は、どうやら線形的にはウィップソーパターンのような気がする”。上の段でドル指数のサイクルを解説したが、下の週足を見ても直近の相場がウィップソーパターンである事が判る。日足で見ると、より鮮明になるだろう。

先週は週初に皆既日食、週末は金星・木星・天王星・冥王星カードナルグランドクロスの一画である24～25日の金星・天王星スクエア（90度）、25日の土星順行、26日の水星逆行中間

移動平均は、サイクルの天底を確認する上で重要です。現行相場は既に3つ全ての移動平均を下回っているの、1月3日の高値が何らかの長期サイクルの天井であった事が判ります。

2014～16年にかけての日柄はイレギュラーであったとして、概ね78週サイクルが有効であり、このサイクルの中に通常であれば3つ、延長していれば4つのPCが入ると考えた方が良いでしょう。直近のケース以外、全て昨年10月の見立て通りの日柄で節目となる安値（つまりPCボトム）をつけています。

問題は、この直近のケースです。3月27日を起点に、相場はそこから18週間後の8月2日に安値を更新しました。ここは昨年5月3日の安値から65週目。従ってここは37カ月サイクルのボトム形成場面であった可能性があります。長期サイクルがボトムをつける時、内包する最終サイクルは歪み（延長もしくは短縮）が生じる事があるので、18週で短縮PCボトムをつけた（あるいは38週で延長PCボトムをつけた）と見てもおかしくはありません。恐らくその場合、相場は目先急反発するでしょう。少なくとも、39週移動平均が目先の上値目標値、13週平均超えが強気トリガーになります。

しかし、現行PCはボトムをつけるまで時間があります。目先反発しても、相場が13週平均越えに失敗すると、まだボトムに向けた下げが続いている事になるのではないのでしょうか。

点が重なった時間帯が変化日として要注目であった。この付近でユーロ/ドルは週の高値をつけ、日経平均株価は週の安値をつけている。従って今週流れが変わるかも知れない。つまりユーロは下落し、日経平均は上昇するという見方である。

星回りの、今週は29日に上弦の月（太陽・月スクエア）になるくらいで相場の転換ポイントになるようなイベントは発生しない。従って流れが変わった場合は、テクニカルやサイクル要因は別として、ジオコスミック的には最低でも来月の頭まで反転しないと思われる。重要度はここ最近の天体位相と比べると若干落ちるが、2日の火星・天王星ライン（120度）と3日の水星・火星コンジャンクション（0度）は個人的に気になる。

前者は相場の上昇のピークと相関性のある角度であり、火星は“戦”の星であり、天王星は“ハブニング”の星である。先週末に安値をつけた日経平均が上昇するなら、この付近までの上昇はあり得るだろう。翌日のコンジャンクションも含めて2日連続で火星関連アスペクトが発生するという事は、規模大小を問わず、何らかの“戦”の匂いがする。この“戦”が逆行終了日と水星逆行シャドウ期間に何らかの影響を与えるのではないかと。

WEBサイトより一足早く、1週間分まとめ読み！！

## 今週のアストロロジー info

- 8月28日（月） 株式市場、今週は緩やかな上昇がテーマ
- 8月29日（火） 閑散に売りなし
- 8月30日（水） 際立った天体アスペクトなし
- 8月31日（木） 数日内に火柱立つ市場多々あり
- 9月1日（金） 日本市場、週明けギャップ出現に注意
- 9月2日（土） 時には情報の遮断も必要
- 9月3日（日） 過去の豊富な研究と経験から生まれた直観は本物



2017年  
夏季勉強会  
DVD

## フォーキャストのその先へ

遠方でお越しいただけなかったお客様のために、毎年恒例7月勉強会を録画し、DVDで販売いたします。税務のプロによる、投資家が避けては通れない「相続」に関する話を第1部で、四半期ごとに分析しているドル、ユーロ、円の動き、日米株式市場や金価格の現状と今後の展開については第2部でお話ししています。

|                                       |  |      |  |
|---------------------------------------|--|------|--|
| 講師                                    | ＜第1部＞<br>あらためて知っておきたい「相続」の話<br>税理士 西村 侯政氏            | 収録時間 | 第1部 76分 第2部 117分   |
|                                       | ＜第2部＞<br>2017年 第3四半期の各種相場分析<br>株式会社投資日報社 代表取締役 鈴木 高明 | 価格   | 10,800円（税込）<br>※WEB販売価格（新規購入には「会員登録」が必要です）<br>【特典1】勉強会当日に配布した資料<br>【特典2】10月勉強会特別価格ご参加権 14,040円→10,800円 |
| <input type="checkbox"/> 詳細・お申し込みはこちら |  |      |  |

(株) 投資日報社 電話: 03-3669-0278 <http://www.toushinippou.co.jp/>  
東京都中央区日本橋人形町3-12-11GRANDE人形町6階 <Category>内の【DVD・CD】からお申し込みください